

圓満寺報

第192号

令和5年1月1日発行

天台宗 別格本山 安禅院円満寺

〒220-0061 横浜市西区久保町50-1

電話 (045) 231-4383

FAX (045) 241-4499

http://enmanji-yokohama.jp/ e-mail:enmanji@xb3.so-net.ne.jp

西郊良光師 京都曼殊院門跡門主に就任す



天台座主、天台宗内局及び曼殊院関係者と記念撮影(於 天台宗務庁)

曼殊院門跡門主 西郊良光

あけましておめでとうございます。コロナウィルスの流行がいまだ収束しきらない今日でございますが、皆様にとって良い一年になりますように祈念申し上げます。

既に天台ジャーナル等で掲載されておりましたがこの度、小生は天台宗から任命を受け、京都市左京区にございます曼殊院門跡門主に就任することとなり、令和四年十一月二十九日、天台宗務庁にて親授式を行い、天台座主よりの任命状を頂いた次第でございます。

「門跡寺院」とはかつて皇族や公家が任職を務めた寺院のことで、天台宗で門跡寺院を名乗る事が許されている寺院は全国で七つしかございません。門跡寺院の五つは京都に存在し「京都五箇室門跡(きょうごごかむんせき)」と呼ばれております。曼殊院もその一つでありますので、大変歴史があり格式の高い寺院でございます。

小生も既に齢八十一であり、門跡門主の任期は一期七年となっておりますので、大役ではございますが親授式に先立ちまして円満寺で責任役員会を開催し、小生の円満寺住職退任と副住職を勤めておりました長男である西郊良貴の住職就任に関する了承を責任役員一同に頂きましたので、この度円満寺住職を退任させていただき、曼殊院の門跡門主としての勤めを今後させていただきます。ここに挨拶を申し上げる次第であります。

振り返ってみれば、円満寺の住職に就任してより五十三年間に渡り住職を勤めさせていただきましたが、その間大きなトラブルなく寺院の運営が行えました事、ひとえに檀信徒をはじめとした皆々様のご協力の賜物でございます。まずは深く御礼を申し上げます。

今年中には円満寺の住職交代に関わる晋山式を行う予定でございます。この程度の規模で行うかはコロナウィルスの流行状況を踏まえながら計画を進めてまいります。状況が許せばできる限り多くの方にご案内を差し上げる事ができれば、と考えております。檀信徒の皆々様におかれましては、引き続きのご支援・ご協力のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

西郊良貴師当寺住職就任のお知らせ



西郊良貴住職近影

安禅院第四十世、円満寺第五世住職を西郊良貴師に五十三年に渡りお勤めを頂きましたが、前頁でお伝えしました通り西郊良貴師が京都曼殊院門跡門主に就任いたしましたため、円満寺住職を退任する事になりました。

令和四年十月八日に円満寺にて責任役員会を開催しました。後任住職として副住職を勤めていた西郊良貴師を円満寺第六世住職として就任することが適任ではないか、との承認が責任役員会にてなされ、令和四年十一月二十九日、滋賀県大津市の天台宗務庁にて天台座主猥下から直々に住職の辞令を頂く親授式が行われ、西郊良貴師の曼殊院門跡門主就任、西郊良貴師の円満寺住職就任の辞令を正式に頂きました。



大樹孝啓天台座主より住職辞令を受ける

既にご存じの方も多いかとは思いますが、改めて西郊良貴師についてご紹介をさせていただきます。西郊良貴師は良貴師のご長男であり、比叡山高校卒業後に大正大学、同大学院を卒業。二十四歳の折に当寺副住職に就任いたしましたので、副住職を二十五年お勤めいただきました。大学時代はカバディ日本代表としてアジア大会に出場するなど、スポーツでも実績を残しました。

東日本大震災発生を契機に被災地でのボランティア活動に尽力、天台宗防災士協議会の設立メンバーの一人であり、ボランティアに赴くのは

もちろんのこと、近年では横浜市仏教会にて横浜市との防災協定締結に尽力。災害支援のみならず、その先の「減災」の取り組みも行っており、仏教系ボランティア団体への講演、指導等も行っております。

神奈川県仏教青年会会長等を歴任し、現在は全日本仏教青年会の理事長に就任。先日は海外参加者を招聘しての世界大会も開催し、仏教系メディアにも大きく取り上げられ、着実に足跡を残してまいりました。



全日本仏教青年会主催の全国大会にて

職員をはじめとしたスタッフは引き続き新任職を支えてまいります。先人達の偉大なる功績に感謝しつつ、檀信徒の皆様にとってより親しみやすく、頼れる存在になれるよう、共に円満寺の護持・発展に努めていくよう努力していく所存です。

節分会ご案内(参加ご案内、豆まき)

例年行っております節分会でございますが、今年は昨年同様、感染予防に配慮した形にて開催をさせていただきます。節分会ではまず『大般若転読』の法要を行い、参加者をはじめとした皆様の厄除けをはじめとして、長寿や病気の平癒、学業の成就、商売の繁昌等の様々なお願い事について祈願をいたします。その後、参加者に本堂内にて豆まきを

行っていただきます。
ご会食は行いませんが、持ち帰りのお食事をご用意させていただきます。参加者にはそのほか升、祈禱札、お菓子のお土産をお渡しいたします。地域の子ども達への豆まきは行いませんが、お菓子やお豆等をご用意いたしましてお分けする予定です。

記

- 一・日時 令和五年二月三日(金) 午後三時～(二時四十分集合)

一・場所

円満寺本堂

一・参加費

一名 一万円
(お弁当、御札代等 全て込み)

節分会法要の様様



※ 参加には事前申込が必要ですが、申込用紙をお送り致しますので、お電話にてお申し込み下さい。

Tel 045(231)4383 (節分への参加希望です)とお伝えください)

御札ご案内

二月三日の節分会において『大般若転読』の法要を行うにあたりまして、祈禱札の申込を受付しております。厄年の一覧等も掲載しておりますので、同封の別紙申込書も是非ご参照下さいませ。

記

一・申込締切

令和五年一月三十一日(火)必着

一・代金

一枚 四千元(郵送料込み。法要後、お札と一緒にご入金用の郵便振替の用紙をお送りさせていただきます)

一・申込方法

同封の別紙申込書に必要事項を記入の上、郵送もしくは電話・FAX・メールにてお申し込み下さい。メールの場合は郵便番号、住所、氏名、願い事を本文内にご記載下さい。

電話 045-131-4383

FAX 045-141-4499

メール emanji@xb3.so-net.ne.jp

一・お札に書ける願い事の一覧(1)

つのお札に書ける願い事(お札)

災厄消除…厄除けのお願い。厄年に当てる方は入れた方がよいでしょう。

家内安全…お家の安全・繁栄を願います。

當病平癒…病気の治癒を願います。

商売繁昌…商売の成功を願います。

学業成就…学業がうまくゆくことを願います。

合格祈願…試験等の合格を願います。

交通安全…自動車等、乗り物の安全運行を願います。

開運招福…運が開き、福が招かれるよう願います。

諸願成就…他の項目に該当しないようなお願いが達成されることを願います。特にお願いごとが思いつかない、という場合も選んでおくとよいでしょう。

必勝祈願…勝負事において、勝利することを願います。

身体健全…身体が健やかであることを願います。

息災延命…何事もなく長生きすることを願います。

社内安全…主に会社等に何事もないことを願います。

安産祈願…無事の出産を願います。

※ 古くなった節分のお札はご持参もしくは郵送頂けましたらお焚き上げさせていただきます。

曼殊院について

この度、円満寺より西郊良光師が門跡門主として赴任をした曼殊院がどのようなお寺なのかを簡潔にですが解説させていただきます。

曼殊院は日本の天台宗を開いた伝教大師（最澄）の時代に比叡山上に草創された小さなお寺が起源とされています。約一千二百年ほど前になります。その後、記録に残っているだけでも数度の移転を行い、現在の

曼殊院の所在地である京都市左京区に移転したのは明暦二年（一六五六）年）とされています。

この移転を行ったのが天台座主も務めた良尚法親王です。良尚法親王は文化・芸術にも非常に教養高く、当時の文化にも様々な影響を及ぼしたと言われていますが、桂離宮を造営したことで名高い八条宮智仁親王の第二皇子でありました。そのため、曼殊院には桂離宮と共通した技法が随所に使用されておりますので、「小さな桂離宮」とも呼ばれています。

曼殊院の庭園



曼殊院は多くの文化財を所有しておりますが、本尊の不動明王像（黄不動）、及び曼殊院本古今和歌集が国宝、大小の書院や庫裏等の重要文化財を有しております。

また、庭園は非常に見事なものであり、秋の紅葉シーズンになりますと非常に多くの観光

客で賑わいます。コロナ禍の為に一時中止されていたライトアップ等も今後できれば復活させていきたい、と西郊門主もおっしゃっておりますので、京都にお越しの際にお時間がございますいたらお立ち寄りになつて頂けましたら幸いです。

曼殊院公式ホームページ

<https://www.manshuinonzeji.jp/>

編集後記

今号では円満寺住職の交代についてを中心にお知らせさせていただきました。突然の事で驚かれた方も多いかと思いますが、職員の間ですら正直びっくりしましたので、お檀家さんが驚かれるのも無理のない話かと思えます。

天台宗の場合、門跡寺院のような非常に宗派にとって重要な寺院の門主（いわゆる住職）を決める場合、誰か一人の意見や意思で決まるものではないです。天台宗の象徴である天台座主猊下をはじめ、委員会や議会での推薦や意思決定があつてからはじめてご依頼があり、円満寺側がお受けする事によってはじめて決まるものであり、通常のお寺の住職の決まり方とはかなり異なる手順を踏んでの決定がなされます。

また通例ですと住職は退任した後

に名誉住職等に就任をするケースが多いのですが、「門主は他寺院の住職の兼任ができない」という規定が天台宗にあり、このせいで住職を急遽交代する必要が生じましたし、名誉住職への就任も門主を務めている間は宗派の規定上はできません。

もちろん門主就任後も、円満寺に一時的に門主が帰省する事もあるのですが、こうした宗派の人間でもあまり知られていないような決まり事にも多々直面し、皆さまへのお知らせが遅れましたこと、何卒ご理解を頂けましたら幸いです。

数年前、西郊良光門主（当時住職）が戸津説法師に選ばれた際、神奈川県では初となり歴史的なこと、という報道がございましたが、曼殊院の門主に就任するのも記録に残っている限りでは神奈川県内寺院では初であり、まさしく前代未聞の出来事です。

円満寺の歴史から鑑みましても非常に名誉であり光栄なことではございますが、一方でお通夜やお葬儀、ご法事や大法要、永代供養といった本来の円満寺としての勤めもおろそかにするわけにはまいりません。西郊良貴新任職を中心として精一杯勤めさせていただきます、皆様にご不安が生じないような体制づくりを心がけていきたいと思えます。

（良嘉記）